加者には管理者が多く、看護職員のワークライフバランスの視点から活発な意見交換がなされました。

発表場所は、メイン会場への通路でしたが、ガラス窓での開放感があり、各発表に対し示説ならではの研究者・フロアとの活発な質疑や意見交換が行うことができたと思います。今後も、この会が、看護の現場からの諸問題が研究され・発表の場となり、看護の実践の情報交換の場となることを期待いたします。

また、今回座長の機会をいただきましたことに感謝いたします。

交流集会１
「新人看護師の転倒リスクマネジメント能力 ―いかに、その力を引き出し育むか―」を担当して

丸　岡　直　子
（石川県立看護大学）

交流集会１では、「新人看護師の転倒リスクマネジメント能力－いかに、その力を引き出し育むか－」をテーマに、転倒に関する研究の第一人者である金沢大学の泉キヨ子先生とリスクマネジメント教育に関する研究テーマに関心をもつ石川県立看護大学の寺井梨恵子先生と３名で担当しました。

この交流集会を企画した理由は２つありました。１点目には、新人看護師の職場適応や教育支援が現在の看護管理の課題となっていることが背景にあります。２点目には、新人看護師が臨床での様々なことに遭遇する中で、いわゆるヒヤリ・ハット体験が新人看護師に与える影響は大きいことがあげられます。そこで、私達は新人看護師が遭遇する頻度の高い入院患者の「転倒（転落を含む）」を取り上げ、新人看護師の転倒リスクマネジメント能力の特徴と、その能力をいかに向上させるかについて参加者の皆様とディスカッションを深めることをねらいとしました。

まず、担当者らがこれまでに取り組んできた「新人看護師の転倒リスクマネジメント能力の形成」に関する研究結果の概要を報告させていただきました。その内容は、新人看護師の転倒リスクマネジメントの有り様が１年間で大きく変化すること、またその能力は経験学習のサイクルをたどること、看護チームの一員としての防止行動の実行や責任の自覚には先輩との関係性が関与していることです。

つぎに、新人看護師の転倒リスクマネジメント能力の向上を目ざした取り組みについて全体討議をすすめました。まず、担当者からは、転倒場面を振り返りながら転倒防止に必要な行動指針を導き出して防止行動に活用するという経験学習のプロセスを促すことや、先輩看護師によるモデリング、転倒予測の判断根拠となる知識の蓄積方法についての提示を行いました。会場からは、新人看護師の成長過程を理解することの重要性や、ＫＹＴ（危険予知訓練）を先輩看護師と新人看護師が共に行うことによって、先輩看護師も新人看護師のリスクマネジメント能力を理解することができ、効果的にフォローすることができるという取り組みが紹介されました。

初めて交流集会を担当させていただき、これまで取り組んできた研究について紹介させていただく機会を得ましたことに感謝しております。昼食時間を利用して、多くの方々に参加いただき、あらためて転倒防止や新人看護師に対する関心の高さを感じました。転倒は環境要因、患者要因、さらにはケア提供側の要因が複雑に絡んで発生します。少しでも転倒の発生を少なくするために、ケアを提供する看護師の転倒リスクマネジマント能力をいかに高めていくかについて、今後も検討を深めたいと思います。

参加いただいた皆様、さらにご意見をいただきました皆様に、あらためてお礼申し上げます。